

30代女性のおしゃれ観・メイク観

——未既婚で変わる“メイク”の意味合い——

- ・女性は無婚も既婚も、「おしゃれ好き」には変わりなし
- ・既婚は「おしゃれしたくても出来ない」ギャップに悩む
- ・既婚は「特別な日」のメイクを楽しみ、無婚は「日常」のメイクにいそしむ

1994/08/02

ポーラ文化研究所
重野・高谷

<はじめに>

「女性は年頃になったら結婚して家に入るもの」…かつて女性はこのような生き方が求められた。しかし女性の社会進出が進み、結婚しても働き続けることがなかば当たり前となった今、女性のライフスタイルは多様になっている。

中でももっともライフスタイルがバラエティーに富んでいるのは30代であろう。結婚している人していない人、仕事をしている人していない人…ライフスタイルが多様化している分、女性の意識も幅広くなっていると考えられる。

ポーラ文化研究所が1993年に実施した『年齢別に見た女性の意識と行動調査'93』によれば、30代女性の未婚と既婚とで「メイク」に対する意識に違いがあることから、女性の考え方がひとつではなくなってきたことがわかる。

さまざまなライフスタイルを持つ30代女性。データから30代女性のおしゃれ観・メイク観を探る。

◎調査概要

【年齢別に見た女性の意識と行動調査'93】

調査地域 : 東京駅を中心とする首都圏30キロ圏内
サンプル : 30代女性250人

30～34歳未婚…50人

30～34歳既婚…75人	……有子率 93.3%	子供の年齢	0～3歳	45.7%
			4～6歳	62.9%
			7～12歳	81.4%

35～39歳未婚…50人

35～39歳既婚…75人	……有子率 90.7%	子供の年齢	0～3歳	27.9%
			4～6歳	41.2%
			7～12歳	95.6%
			13～15歳	23.5%
			16～18歳	14.7%

調査対象者抽出法 : エリアサンプリング法

調査方法 : 個別訪問面接聴取法、及び留置法の併用

調査機関 : 平成5年6月～7月

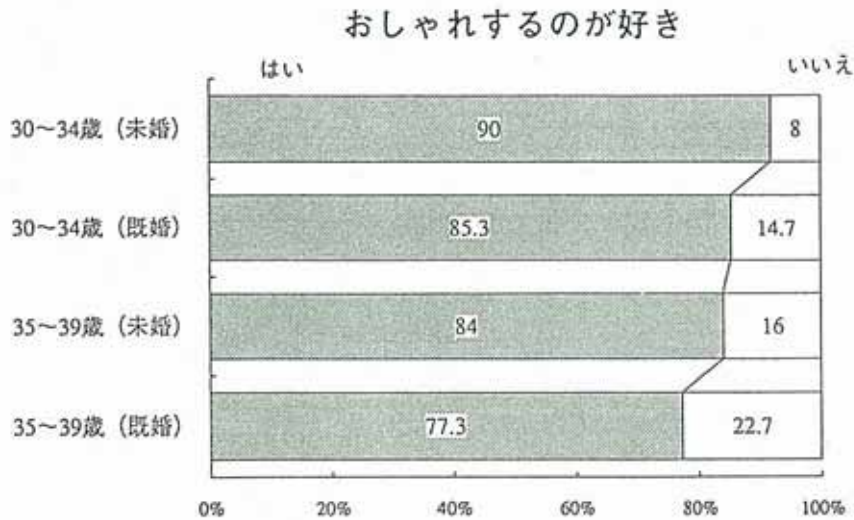
【1】おしゃれへの関心と、その満足度

——ほとんどの女性は「おしゃれ」するのが好き、でも満足しているのは未婚だけ

●おしゃれするのが好き

「おしゃれするのが好き」に“はい”“いいえ”で答えてもらった。

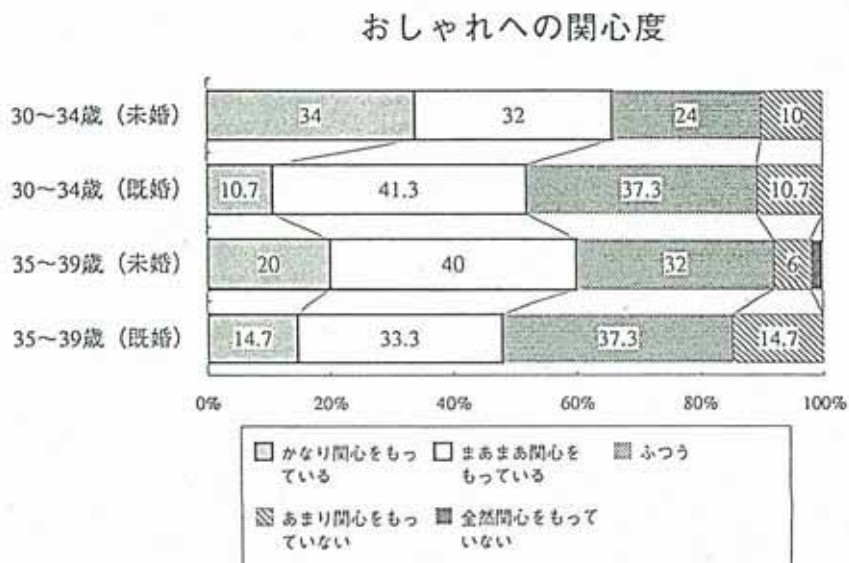
「おしゃれするのが好き」と答えたのは30代前半未婚が最も高い。とはいえ、最も少ない30代後半既婚でも8割近くになっている。



●おしゃれ関心度

おしゃれへの関心度を、「かなり関心をもっている」「まあまあ関心をもっている」「ふつう」「あまり関心をもっていない」「全然関心をもっていない」の5つの中から答えてもらった。

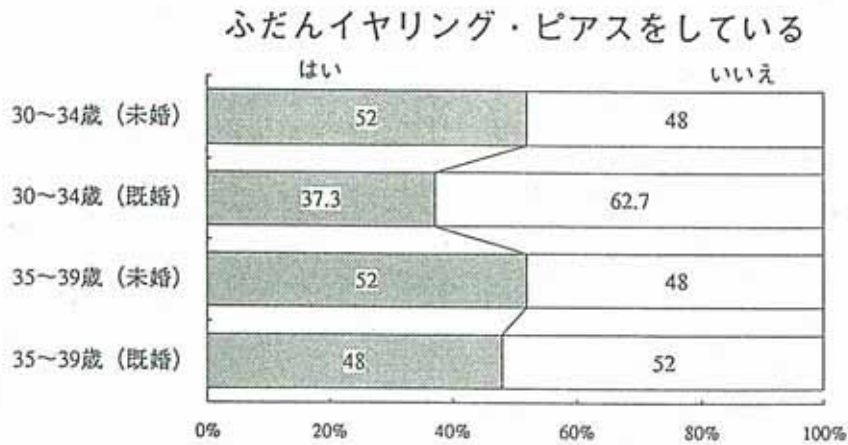
おしゃれに関心が「かなりある」「まあまあ」と答えた‘関心派’は、未婚で60%以上。特に30代前半未婚の「かなりある」がきわだって多い。また既婚でも50%前後でおしゃれに対する関心は高くなっている。



●ふだんイヤリング・ピアスをしている

「ふだんイヤリング・ピアスをしている」に“はい”“いいえ”で答えてもらった。

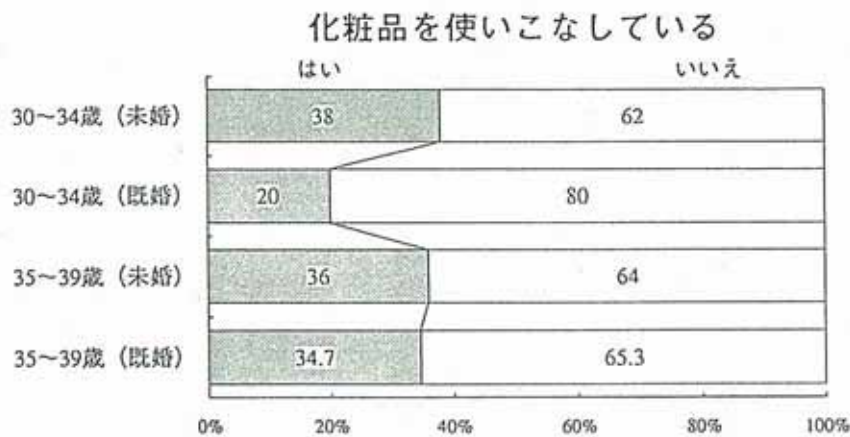
“はい”と答えた人は未婚のほうが既婚より多い。また、30代前半既婚の6割強がイヤリング・ピアスをしていない。



●化粧品を使いこなしている

「化粧品を使いこなしている」に“はい”“いいえ”で答えてもらった。

“はい”と答えたのは既婚より未婚が多く、30代前半未婚が最も多く4割弱となっている。一方“いいえ”が最も多いのは30代前半既婚となっている。



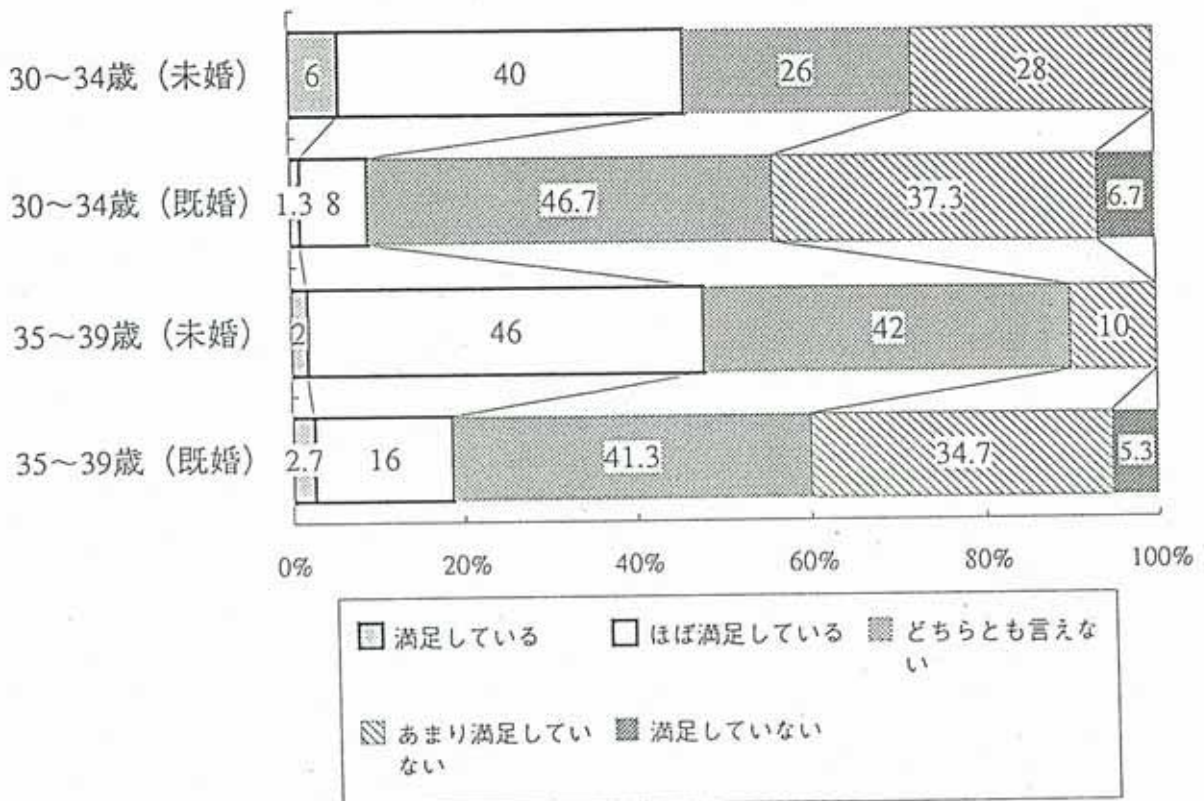
●おしゃれ満足度

おしゃれへの満足について、「満足している」「ほぼ満足している」「どちらともいえない」「あまり満足していない」「満足していない」の5つの中からあてはまるものを選んでもらった。

「満足している」「ほぼ満足している」をあわせて、もっとも満足度が高いのは30代後半未婚の48%。実に約2人に1人は自分のおしゃれに満足していることになる。

反対に30代既婚の満足度は低く、未婚との差が大きく開いているのが目を引く。特に30代前半の場合、未婚の満足度が46%であるのに対し既婚は1割にも満たない。おしゃれ満足度では未婚と既婚とで大きなギャップが生じていることがわかる。

おしゃれ満足度



【2】メイクにおける未婚と既婚の違い

——既婚は「特別な日」のメイクを楽しみ、未婚は「日常」のメイクにいそしむ

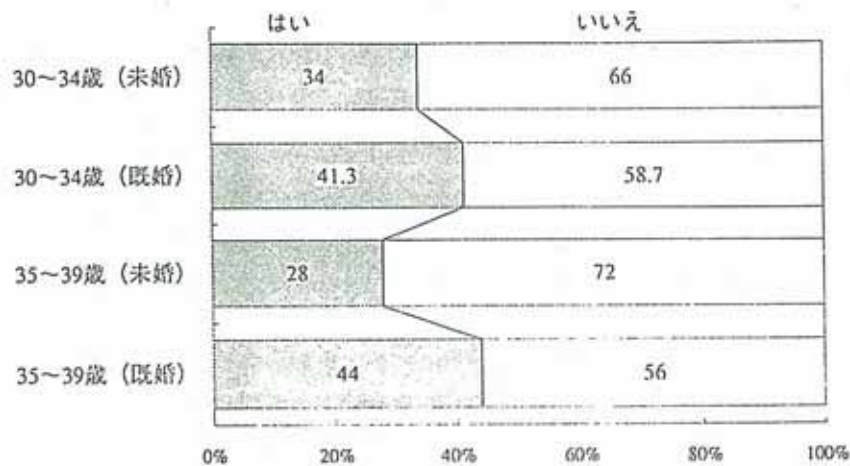
以下のそれぞれの項目について、‘はい’ ‘いいえ’ で答えてもらった。

●近所でもメイクする／外出時には必ずメイクする

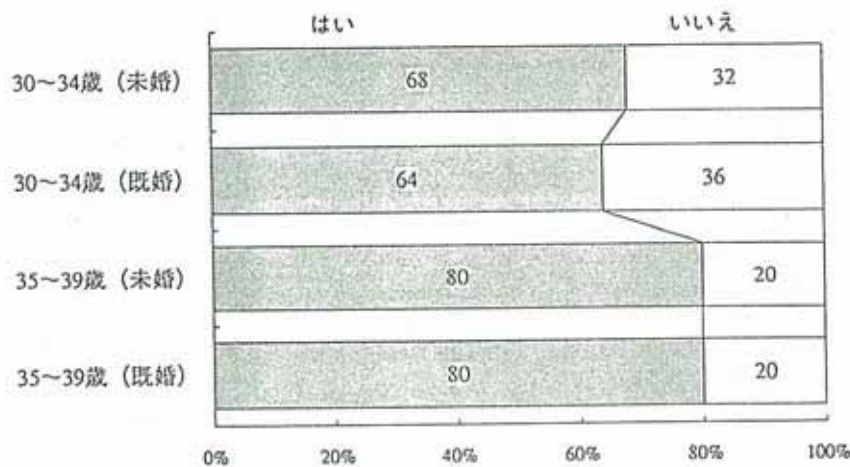
「近所に買物に行く時でも必ずメイクする」では未婚より既婚が高く、30代後半既婚が最も多く、44%となる。

「外出時には必ずメイクする」では、未婚既婚を問わず30代前半より30代後半のほうが高くなる。

近所に買物に行く時でも必ずメイクする

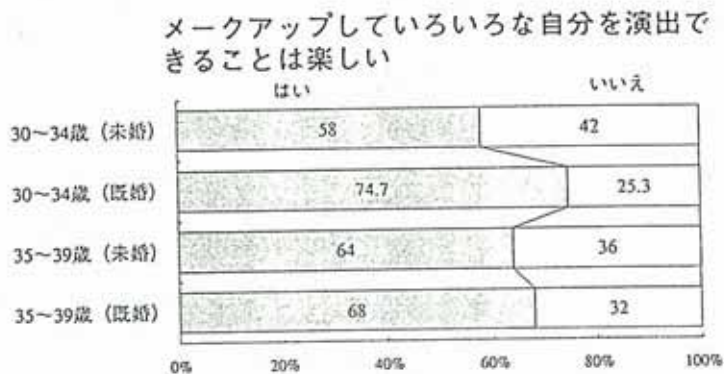
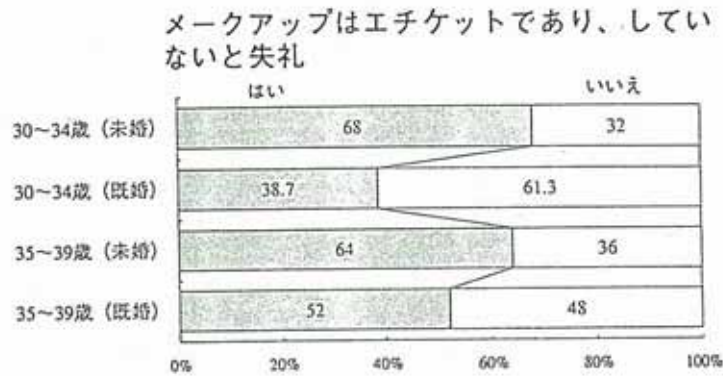
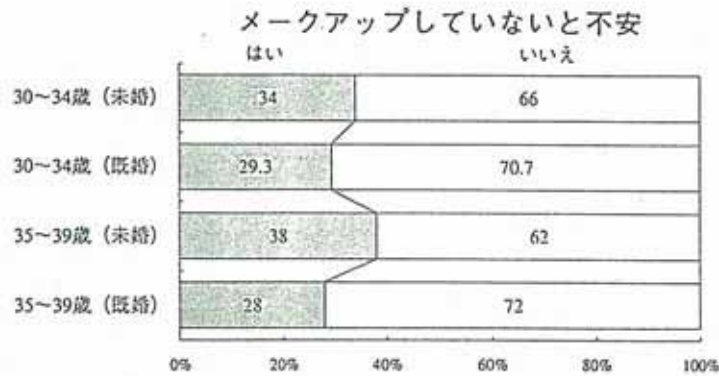


外出時には必ずメイクアップする



●メイクしていないと不安／メイクはエチケット／メイクによる自己演出は楽しい

「メイクしていないと不安」なのは未婚。また未婚の場合「メイクはエチケット」と思う割合が高いのも特徴である。一方「メイクによる自己演出は楽しい」と答えたのは既婚。特に30代前半が多いのが目をひく。



【まとめ】

女性にとって、おしゃれやメイクは「自分らしさ」を表現する自己アピールのひとつである。ではその「おしゃれ観」「メイク観」は、ライフスタイルの影響をどのように受けるのだろうか。おしゃれへの関心が高い点で共通する30代女性を未婚と既婚とにわけると、おかれている状況の違いがおしゃれ観に影響していることがわかった。

未婚の場合、収入や時間はある程度自分の自由に使うことができるため、満足度も高い。ところがメイクに関して見てみると、「エチケットであり、していないと失礼」と考えている人が多い。これは未婚ではフルタイムで働いている人が多く（グラフ1）、メイクするにあたって「人からどう見られるか」という意識が、楽しんでメイクすることへの束縛となっていると考えられる。つまり未婚の社会を意識するメイクは、「特別」ではなくむしろ「日常」であるといえるのではないだろうか。

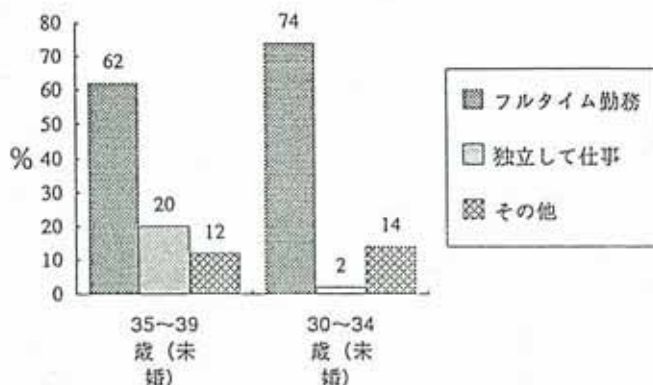
家事や子育てに忙しい既婚の場合、おしゃれ満足度は低く、特に子育てなどで忙殺される30代前半既婚の不満が激増している。同じ年代の未婚と比較するとその差は非常に大きく、既婚の「おしゃれしたくてもおしゃれできない」というギャップがあることがわかる。

既婚はおしゃれで満たされないぶんメイクに自分らしさを表現するようである。30代既婚の場合半数以上は専業主婦で（グラフ2）、メイクが楽しめる外出の機会はそう多くない。既婚がメイクに「特別な」意味を感じていることは、「メイクでいろいろな自分を演出できることは楽しい」という考え方が高いことから知る事ができる。

以上のようにおしゃれ観・メイク観は、ライフスタイルの影響を大きく受けるのである。

グラフ1

30代未婚女性の職業



グラフ2

30代既婚女性の職業

